

# 成田エクスプレスと スカイライナーを徹底比較

——速く・便利に・快適に・わかりやすく 空港アクセスの戦い——

近年、外国人観光客は年々増加しており、空港アクセスの重要性も増えています。そこで今回は、成田空港へアクセスするスカイライナーと成田エクスプレスを速達性・利便性・快適性・料金・外国人が利用しやすいかなどで徹底比較し、わかりやすく説明していきたいと思います。



制作 路線研究課

## 1.京成スカイライナーについて



京成スカイライナーは、1978年の新東京国際空港(現:成田空港)の開港と同時に運行が開始されました。運行開始当初は、成田空港への唯一の鉄道でしたが、当時あった成田新幹線計画により京成成田空港駅は空港ターミナルビルから約1km離れた場所(現:東成田駅)に設置することを余儀なくされました。その後、成田山新勝寺最寄り駅の成田や乗降の多い船橋への停車を開始し、千葉県中央部から成田空港へのアクセス列車としての面が強くなります。1991年には、成田空港ターミナルビル直下への乗り入れを果たしました。そして、2010年成田新幹線計画の用地などを利用し成田スカイアクセス線が開業し、それと同時に京成本線経由で運行されていたスカイライナーは、成田スカイアクセス線経由での運転に変更されました。京成本線経由で、日暮里—空港第2ビル間51分かかっていた所要時間が最短で36分になりJRの成田エクスプレスに対して優位に立ちました。

## 2.成田エクスプレスについて



成田エクスプレスは1991年の成田空港への鉄道乗り入れ開始に伴って運転開始された特急列車です。運転区間は、需要拡大により徐々に拡大され、現在では、成田空港～東京・大宮・大船・高尾(繁忙期には河口湖・横須賀まで延長)で一日当たり27本運転されています。2010年アクセス線経由のスカイライナー運行開始により、空港利用客はスカイライナーへの転向が増えました。また、千葉県からの通勤特急としての性格もあります。当初は253系で運転開始され、2010年よりE259系12両編成(6両+6両 グリーン車2両・全車指定席)での運転が開始されました。この列車は、割高なA特急料金や独自のグリーン車料金、所要時間で、他の交通機関に対して、劣等的な部分が多めになっていますが、多方面への直通運転などにより観光客の需要も増えています。

### 3.スカイライナーvs 成田エクスプレス

スカイライナーと成田エクスプレス（NEX）の  
運転区間や料金などを比較表にまとめました。

	スカイライナー	NEX
運転区間	上野・日暮里～ 成田空港	東京・横浜他～ 成田空港
料金	2470 円	普通車 3020 円
所要時間	約 41 分	約 59 分
本数	平日 28 本	平日 27 本

スカイライナーは、所要時間が短く、安いですが、上野、日暮里からのみのアクセスとなります。対する成田エクスプレスは、自社の路線網を生かして、大船・横浜方面や高尾・新宿方面などから直通している列車もあるので外国人でも乗りやすいのがポイントです。さらに追加料金を支払えば、グリーン車に乗ることができます。グリーン車の座席は本革製なので、快適に移動することができます。

この時点で比べてみると、スカイライナーは、「速さ重視」で成田エクスプレスは「利便性・快適さ重視」であることが分かります。



▲NEX は成田空港から横浜や新宿などに直通する

### 4.実際に乗車してきました

私たちは、実際に乗車しないと意味がないという訳で  
2017年4月23日に以下の行程で実際にスカイライナーと成田エクスプレスを乗りました。

#### 【行程】

京成上野 8:00→ スカイライナー →成田空港 8:44  
成田空港 9:45→ 成田エクスプレス →東京 10:44

まずは京成上野駅からスカイライナーに乗車します。スカイライナーは全車指定席です。スカイライナーの車内は案内表示機が車端の上部にあり、全面展望や次駅表示などが流れます。また全席にコンセントがついています。



▲京成上野駅の液晶の案内。外国語も対応している。  
上野を出発したときには乗車率は2割程度でしたが日暮里で満席になりました。しばらくすると北総線に入りスピードが上がります。

印旛日本医大駅を過ぎるとさらにスピードが上がります。スカイライナーはこの区間では160km/hで走りますが走行音はとても静かで揺れもありませんでした。約40分の乗車で終点の成田空港に到着しました。

成田空港では少し空港内を散策したのち成田エクスプレスに乗車します。



#### ▲成田空港にあるスカイライナーの窓口

成田エクスプレスも全車指定席です。車内はシンプルな作りになっていて、頭上には案内表示機がついており案内は、日本語、英語、中国語、韓国語に対応しています。またニュースなども流れます。また全部の座席にコンセントがついています。



#### ▲成田空港にある成田エクスプレスの窓口

乗車率は6割程度でJAPANRAILPASSが使えるということもあって、外国の方が多かったです。東京駅で横浜方面と、新宿方面に分割するので多方面へアクセスすることができます。またNEXの最高速度は130km/hです。朝や夕方には一部列車が千葉、佐倉、四街道、成田にも停車し、東京から千葉へのアクセスにも貢献しています。

### ●結論 ～実際に乗ってみて～

#### ●スカイライナー

荷物用の棚は広く取られていました。車内には英語や中国語などが対応している液晶画面があり外国人にも分かりやすくなっていました。また座席はシートピッチも広く取られ、コンセントも付いていて快適でした。窓口も外国人に対応していました。

#### ●成田エクスプレス

成田エクスプレスは値段が少し高く、時間もかかりますが関東の様々なエリアから乗車することが可能でした。荷物用の棚にはチェーンがつけられていました。また車内には外国語対応の液晶があり、座席の下にはコンセントがついていました。窓口も外国人に対応していました。

ここから考えるとどちらとも快適性・分かりやすさは優れていましたが、成田エクスプレスは多方面にアクセスができるためスカイライナーよりも利便性が優れている結果となりました。

### 5.スカイライナー・NEX以外のアクセス

しかしスカイライナー・成田エクスプレスは料金が高い、と思う方もいるかと思います。そこで2つの列車以外で成田エクスプレスにアクセスする交通機関をまとめました。

#### ●JR エアポート成田

JRの快速列車です。ルートは成田エクスプレスと同じです。また日中のほとんどの列車は横須賀線に乗り入れ横須賀方面へ行きます。東京～成田空港の所要時間は約1時間32分です。料金は1320円です。

## ●京成・北総線 アクセス特急



京成の無料特急です。スカイアクセス線を走行します。浅草線、京急線に乗り入れ羽田空港まで向かいます。浅草線内でエアポート快特となり主要駅のみ停車します。早朝、深夜は京成上野まで向かいます。日本橋～成田空港の所要時間は約1時間2分で、料金は1330円です。

## ●京成線 本線特急

京成の特急料金不要の特急です。アクセス特急とは違い京成本線を走行します。京成上野～成田空港の所要時間は1時間18分で、料金は1030円です。

## ●京成バス 高速バス

東京駅前～成田空港間を走っています。しかし、渋滞に巻き込まれる可能性があります。所要時間は、約1時間5分で、料金は約1000円です。

## 6.かつての車両の今

### ●スカイライナー AE100 形



スカイライナーの2代目車両(現在は3代目)、AE100形は1990年6月、営業運転を開始しました。しかし、成田スカイアクセスが開業、そしてそれに伴う新造車が登場したため、スカイライナーの運用を外れ、スカイアクセスを通らない本線経由のシティライナーとして運用されることになりました。ところが、老朽化などによって、シティライナーの運用も外れることになり、2016年2月に引退、現在は宗吾車両基地に静態保存されています。

## ●成田エクスプレス 253 系



253系は成田エクスプレスの専用車両として作られました。2009年10月に成田エクスプレス用の新型車両、E259系が登場したことによって順次置き換えが進み、2010年6月末、成田エクスプレスの運行を終了しました。その後長野電鉄へ6両譲渡し、一部は廃車となりました。長野電鉄では、2100系電車として、特急スノーモンキーで活躍しています。

## おわりに

いかがでしたでしょうか。皆さんが成田空港に行くときにこの記事を参考にしていただけると幸いです。最後まで読んでいただきありがとうございました。またの来校をお待ちしております。

路線研究課